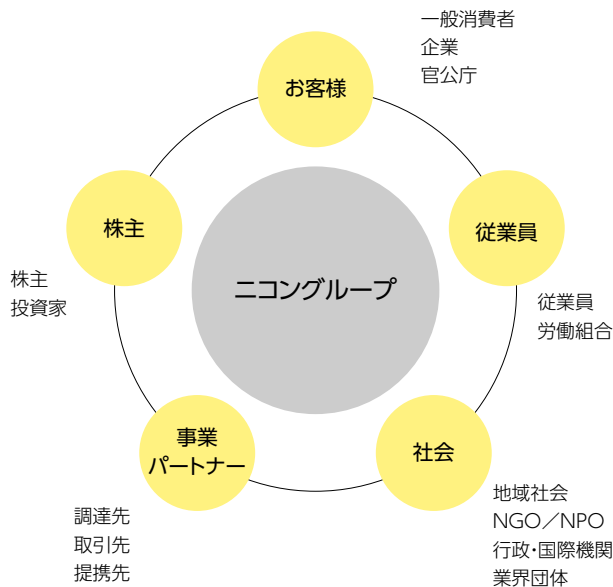


ステークホルダーとの対話

基本的な考え方

企業が社会的責任を果たしていく上では、ステークホルダーに対し、自社の方針や実績を開示するとともに、それぞれの意見や期待を受け止め、自社の活動を継続的に改善していくことが重要です。そのためには、ステークホルダー・エンゲージメントが欠かせません。ニコングループでは、さまざまな機会や手法により、お客様、株主、従業員、事業パートナー、社会などのステークホルダーと双方向のコミュニケーションを積極的に図り、健全な関係の維持、発展に努めています。

● ニコングループの主なステークホルダー



● ステークホルダーとの主なコミュニケーション

主なステークホルダー	コミュニケーション手法	目的
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ・コールセンターやサービス窓口(随時) ・営業担当部門/サービス担当部門によるお客様対応(随時) ・ウェブサイトなどによる情報発信(随時) ・展示会/イベント(年複数回) ・マスコミを通じたニュースリリース(随時) など 	高品質で高付加価値の製品・サービスの提供、ご意見・ご要望への対応、適切な製品・サービス情報の提供
株主	<ul style="list-style-type: none"> ・株主総会(年1回) ・公告(随時) ・ニコンレポート、中間報告書などの発行(年1回) ・ウェブサイトなどによる情報発信(随時) ・決算説明会(年4回) ・ESG投資に関する対応(随時) など 	適時適正な情報開示、資本市場からの適切な評価・支持の獲得、公正かつ透明性の高い企業経営、適切な利益還元
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・社内報・グループポータルサイトなどによる情報発信(随時) ・労使協議会、または従業員代表との協議(随時) ・報告相談制度(随時) ・グループ会社人権/労働モニタリング調査(年1回) ・従業員意識調査/アンケート(1~2年に1回) ・社長タウンホールミーティング(随時) など 	多様な人材の積極的活用、働きがいのある仕事・職場環境の提供、適正な処遇、労働安全・メンタルヘルスの向上、良好な労使関係
事業パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の事業活動を通じての対話(随時) ・調達パートナーの会(年1回) ・調達パートナーへのCSR調達に関する説明会/調査/監査/是正支援(随時) ・環境管理システムの構築状況の調査/アセスメント(随時) など 	社会に役立つ製品・サービスの提供による相互発展、公正な取引関係、円滑な情報共有、共同研究開発、CSR調達
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントへの参加(随時) ・企業市民活動でのNGO/NPOなどとの協働(随時) ・経済団体や業界団体などへの参加(随時) ・官公庁や学術団体/研究機関への相談(随時) ・サステナビリティ報告書の発行(年1回) など 	法令・規制への対応、産官学共同プロジェクトへの参画、企業市民としての地域への参画、学術団体/研究機関支援を通じた技術発展への貢献、パートナーシップによる活動強化

● サステナビリティ関連の主な加盟団体(2023年3月末現在)

団体名
アーティクルマネジメント推進協議会(JAMP)
一般社団法人 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)
一般社団法人 経営倫理実践研究センター(BERC)
一般社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA) (CSR委員会、環境推進委員会、責任ある鉱物調達検討会)
一般社団法人 日本経済団体連合会 (企業行動・SDGs委員会)
一般社団法人 学びのイノベーション・プラットフォーム(PLIJ)
電機・電子4団体 (製品化学物質専門委員会、事業所関連廃棄物・リサイクル対策専門委員会、 事業所関連化学物質対策専門委員会、生物多様性ワーキンググループ)
日本機械輸出組合(JMC)
Institute of Business Ethics(IBE)
Japan Business Council in Europe(JBCE) (CSR委員会)
Responsible Business Alliance(RBA)
Responsible Minerals Initiative(RMI)
SEMI Japan (SDGs & サステナビリティ委員会)

従業員とのエンゲージメント

ニコングループでは、従業員一人ひとりが会社のビジョンに共感し、方針や計画を納得して自ら積極的に行動することが重要と考えています。

2022年度は、新しく発表した中期経営計画を従業員に伝えるため、ポータルサイト内に特設サイトを設け、社長が中期経営計画やそこに込めた思いなどを語る動画全3回などを公開しました。

また、前年に続き「社長タウンホールミーティング2022」も開催。国内では、社長と各ユニットから選出された代表者が活発に意見を交わすミーティングを全3回開催し、ライブ配信は、すべての回で1,200以上のアクセスがあり、録画された内容を後日確認できる見逃し動画も含めて、多くの従業員が視聴しました。海外グループ会社を対象としたタウンホールミーティングもオンライン形式で全9回開催され、社長と各社の代表者によるディスカッションでは、中期経営計画に関わる質問や意見が飛び交いました。

このほか、グループポータルサイト、社内報、メールなどの情報発信も、引き続き積極的に行っています。



中期経営計画の社内向け説明対談の動画

株主・投資家とのエンゲージメント

ニコンは、「資本市場を意識した経営」を掲げ、株主や投資家との対話を重視したIR活動に力を注いでいます。企業価値の持続的成長の実現をめざすニコンにとって、株主・投資家とのエンゲージメント(目的を持った対話)は、さまざまな観点からご意見をいただける貴重な機会だと考えています。

ニコンが実施する株主や機関投資家、アナリストとの面談は、年間で国内外のべ約500社にのびります。2022年度も、四半期ごとの決算発表をウェブ配信方式で実施しました。さらに今期は、ニコンをより深くご理解いただく機会として初のIR Dayを開催し、各事業責任者より2022年4月発表の中期経営計画における事業の財務目標、戦略などをご説明しました。またトップマネジメントが、株主や機関投資家の皆様から直接意見を伺う面談では、オンライン形式に加え、いち早く国内外において対面形式も再開しました。このように多くの機関投資家やアナリストの皆様との建設的対話を通じて、適時適切に経営状況をありのままに伝える努力を重ねています。株主・投資家からいただくご意見・ご助言は、ニコングループが成長戦略や事業運営、構造改革などを遂行する際の有益な示唆に富んでいます。とりわけ長期的視点を重視する投資家とは、事業を通じた社会課題解決への貢献、資本配分を含む財務戦略、ガバナンスを中心としたESGに関する課題など、多岐にわたる率直な意見交換を重ねています。これらの対話内容は取締役会や経営委員会の場でも定期的に共有し、経営の振り返りや方針の検討に活かしています。

今後もニコンは、質・量の両面で株主・投資家とのエンゲージメントの充実を図り、ステークホルダーのご期待・ご要望に真摯に耳を傾け、経営改善に活かしていきます。

社外からの評価

ニコングループは、サステナビリティ活動を積極的に推進している企業として、さまざまな外部機関より評価されています。

● ESG 投資インデックス組み入れ状況(2023年6月30日現在)

ESG 投資インデックス	選定／概要
 FTSE4Good	選定: 2004年より ロンドン証券取引所に属するFTSE Russell社が作成する世界の優良企業を選定したESG投資インデックス
 ECPI Indices	選定: 2011年より ECPI社は、ミラノやルクセンブルグに拠点を置き、企業のESGに関する調査、格付けを行っています
 SOMPO サステナビリティ・インデックス	選定: 2013年より ESGの評価が高い企業に幅広く投資する、年金基金・機関投資家向けの社会的責任投資ファンドです
 FTSE Blossom Japan Index *1	選定: 2017年より ESGの視点から優れた日本企業のパフォーマンスを反映するよう設計されたインデックスです
 MSCI ジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数*1*2 2023 CONSTITUENT MSCI ジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数	選定: 2017年より 日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中でESG評価が高い企業が選ばれています
 Dow Jones Sustainability Indices [DJSI World] および [DJSI Asia Pacific]	選定: 2018年より 毎年世界の大手企業を対象に「経済」「環境」「社会」の3つの側面から企業の持続可能性を評価して数値化し、業種別の評価結果、上位約10%を「DJSI World」に、アジア・太平洋地域の上位約20%を「DJSI Asia Pacific」に選定します

ESG 投資インデックス	選定／概要
 S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数*1	選定: 2018年より 日本市場の代表的な株価指数であるTOPIXをユニバースとし、環境情報の開示状況、炭素効率性の水準に着目して、構成銘柄を決定する指数です
 S&P Japan 500 ESG index	選定: 2019年より S&P Dow Jones Indices社が新たに発表した「S&P500ESGインデックス」シリーズのうち、日本の主力インデックスをユニバースとしたものです
 MSCI 日本株女性活躍指数*1*2 2023 CONSTITUENT MSCI 日本株 女性活躍指数 (WIN)	選定: 2019年より 日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中で性別多性に優れた企業が選ばれています
 FTSE Blossom Japan Sector Relative Index *1	選定: 2022年 各セクターにおいて相対的に「環境」「社会」「ガバナンス」について優れた対応を行っている日本企業のパフォーマンスを測定するために設計されています

*1 GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)のESG指数に採用されています。

*2 株式会社ニコンがMSCIインデックスに含まれること、および本ページにおけるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関連会社による株式会社ニコンへの後援、保証、販促には該当しません。MSCIインデックスは、MSCIの独占的所有です。MSCI、MSCIインデックス名およびロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標もしくはサービスマークです。

● ESG評価(2023年4月6日現在)

格付	評価／概要
CDP 気候変動Aリストおよび CDP Supplier Engagement Leader 	CDPは、環境問題に高い関心を持つ世界の機関投資家などの要請に基づき、企業や自治体に、気候変動対策、水資源保護、森林保全などの環境問題対策に関して情報開示を求め、その対策を促すことを主たる活動としている非営利組織です。気候変動では、最高ランクのAを獲得した企業が「Aリスト」に選定されます。また、Supplier Engagement Leaderは、気候変動に関してサプライヤーと協力するグローバルリーダーを認定します
MSCI ESG レーティング「AAA」* 	MSCI ESG レーティングは業界固有のESGリスクおよび、同業他社と比較した当該リスクに対する管理能力に応じて、企業のESGパフォーマンスを「AAA」から「CCC」まで7段階で格付けしたものです。2023年に最高評価である「AAA」を獲得しました
Sustainability Yearbook 2023 Top1% S&P Global ESG Score 	S&Pグローバル社は、毎年、世界の大手企業を対象に「経済」「環境」「社会」の3つの側面から企業の持続可能性を評価し、特に優れたスコアを獲得した企業を選定し、表彰しています。Top1% S&P Global ESG Scoreは、各産業グループにおいて最高スコアを獲得した企業とのスコアの差が1%以内かつスコア60以上の企業が表彰されます

* THE USE BY NIKON CORPORATION OF ANY MSCI ESG RESEARCH LLC OR ITS AFFILIATES ("MSCI") DATA, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT, RECOMMENDATION, OR PROMOTION OF NIKON CORPORATION BY MSCI. MSCI SERVICES AND DATA ARE THE PROPERTY OF MSCI OR ITS INFORMATION PROVIDERS, AND ARE PROVIDED 'AS-IS' AND WITHOUT WARRANTY. MSCI NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI.